

放射線技術科

放射線技師は様々な画像診断機器を使い、身体組織の情報を精細な医療画像情報として正確にとらえ、診断治療する医師に提供しています。良い検査を行う為には技師の患者様の立場にたった対応と患者様の協力が必要です。そのために、不安を取り除くような分かりやすい検査説明を行い、納得して検査を受けてもらうよう日々努めています。

スタッフ紹介



阿武 泉 (あんの いずみ) 昭和 51 年卒

久留米大学医学部

専門分野

放射線診断

専門医

日本医学放射線学会専門医

放射線診断科部長

放射線科は放射線科医1名、放射線技師9名、受付事務2名で業務を行っています。

業務内容

放射線科の業務内容には、検診（人間ドック）と画像診断があります。画像診断においては、一般撮影、透視検査、マルチスライスCT検査、MRI検査、DSA血管撮影検査、DXA骨密度検査などがあり、各科の臨床診断を画像診断の立場からサポートし、より確実な確定診断に結びつくよう努力しています。緊急を要する検査は優先的に対応し、撮影された画像は、フィルムでなくサーバー（PACS）にて運用し各モニターで閲覧します。検査結果は当院の医師が読影後、必要に応じて放射線科医師が二重で読影するダブルチェック体制としています。

遠隔画像診断支援システムの導入

～各科待機医師による画像診断と適切な指示～



遠隔画像診断支援システム

当院では主治医や画像診断専門医によってCT、MRIなどの画像診断を行っています。しかし、医療の現場では“緊急手術か、大学病院に救急搬送か”の診断結果等が早急に求められる場面も多く、このような状況の中でも正確な診断を得る為に、各科待機医師による画像診断支援と適切な指示が得られるようにシステムを導入しています。これを遠隔画像診断支援システムと呼んでいます。この導入によって、医療の質の向上を図ると共に、より良質な画像診断を得ることができるようになりました。

画像ファイリングシステム Claiοの導入



画像ファイリングシステム Claiο

当院で撮影される検査画像はデジタル情報であり、この情報を画像サーバーに蓄積し保存、管理されています。また、画像閲覧システム（モニター診断）が導入され、患者様の過去画像の検索、参照、比較が迅速かつ容易に行え、フィルムが不要となりました。これにより、患者様の検査後の待ち時間も短縮されました。

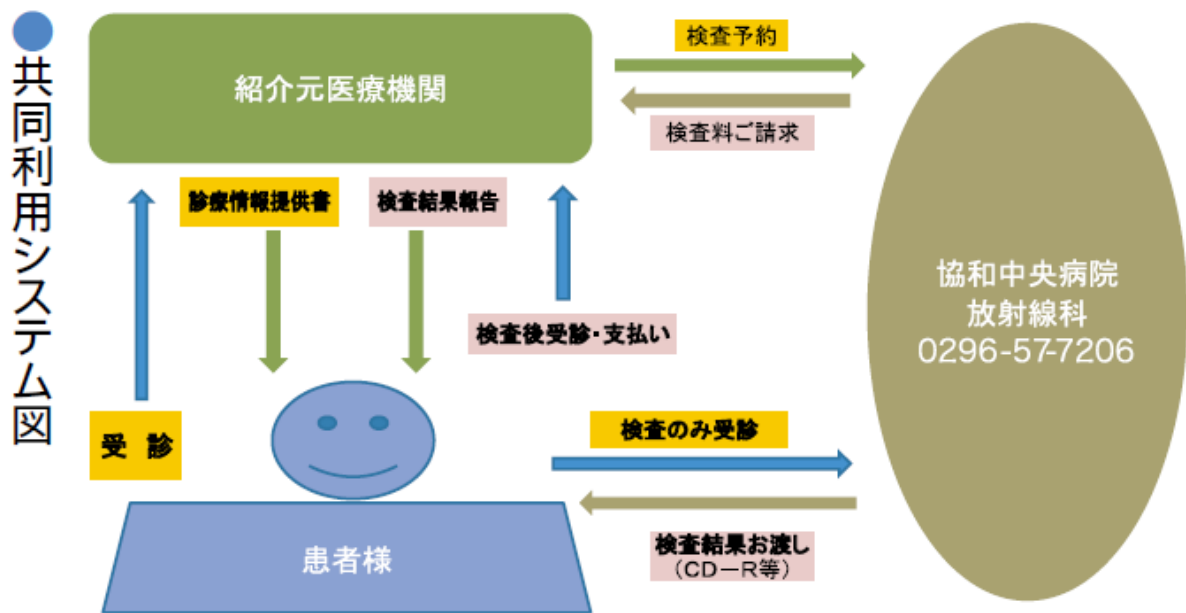
医療機器（CT,MRI）共同利用について

現在の保険医療制度において、病院診療所間の連携が進められていく中、当院においても近隣の医療機関にMRIやCTを共同利用していただいています。詳細は[こちら](http://www.kyowachuo.jp/ct_mri/)をご参照ください

http://www.kyowachuo.jp/ct_mri/

ご予約・お問い合わせは下記までご連絡ください。

放射線科予約窓口 直通電話 0296-57-7206



導入医療機器



MRI(3.0T)検査装置

脳ドックではX線被ばくすることなく脳動脈瘤や動静脈奇形、脳動脈硬化に伴う脳血管の狭窄、これに伴う脳梗塞の早期発見の診断ができます。脳組織は一度障害を受けると二度と再生しない臓器ですから、早期発見、早期治療が不可欠です。



マルチスライスCT検査装置

1度に32断面を同時に撮影できる最新鋭のマルチスライスCTです。従来のX線CTスキャナと比べて、とても速く検査が行えますので、呼吸停止が困難だった患者様でも楽に検査が行えます。また、速く検査ができるだけでなく、とても細かいところまで見えるようになり、今まで見つけにくかった病気も早期発見が期待できます。

撮像時間が短いことで大動脈などの動脈の狭窄がより簡単に診断できる様になりました。



血管造影(DSA)検査

肝癌の発見、肝癌の寒栓療法、その他の悪性腫瘍における病変部の動脈内への抗がん剤注入により正確に効果的に行えるようになり、治癒や延命効果が期待できるようになりました。特に微細な管（マイクロカテーテル）を使用した、病変部のみへの薬剤注入は全身への影響を最小限にとどめ、病変部の治療効果を高めるために有効な方法です。また脳動脈瘤の発見率も向上し、切らなくても直る方法も今後可能と考えられます。

一般撮影装置

～FPD(フラットパネル型検出器)装置～

フィルムを用いることなく、連続して撮影することができる最新のレントゲン装置です。従来装置と比較してX線の検出感度に優れているため、診断に必要な被ばくを最小限に抑えることができます。また、胸部・腹部などのさまざまな部位において「仮想グリッド」と呼ばれる機能を用いることで、さらに少ない線量で撮影することもできます。画像処理も以前より早くなり、検査時間を短縮することができます。





骨密度測定装置

骨粗鬆症診断の最新のガイドラインに適合した骨密度装置で、骨折頻度が高い部位（腰椎、大腿骨）を直接計測することが可能となり、質の高い骨粗鬆症診療が行えます。検査測定は約 10 分程度で痛みもありません。また、被ばく線量もごくわずかで患者様にとって安全な装置です。